

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「土佐日記 ～忘れ貝～」問題

四日。楫取り、「今日、風雲の氣色はなはだ悪し。」と^①言ひて、船^②出ださ^③アズ^④なりイぬ。しかれども、

ひねもすに波風^④立た^⑤う。この楫取りは、日もえ^⑤測ら^エぬかたゐ^オなりかけり。この泊の浜には、

くさぐさのうるはしき貝、石など多かり。^⑥かかれれば、ただ昔の人をのみ^⑦恋ひつつ、船^キなる人の^⑧詠め^クる、

^⑨寄する波^⑩打ちも^⑪寄せなむわが^⑫恋ふる人忘れ貝^⑬下りて^⑭拾は^ケむ

と^⑯言へ^コれば、ある人の^⑯堪へ^サずして、船の心やりに^⑯詠め^シる、

忘れ貝^⑯拾ひしも^⑯せ^スじ白玉を^⑯恋ふるをだにも形見と^⑯思は^セむ

となむ^㉑言へ^ソる。女子のためには、親幼く^㉒なりタぬ^チべし。「玉ツなら^テずも^㉓ありト^ケむを。」と人^㉔言は^ナむや。

されども、「死^ニし子、顔よかり^ヌき。」と^㉕言ふやうも^㉖あり。なほ、同じ所に、日を^㉗経ることを^㉘嘆きて、

ある女の^㉙詠め^ネる歌、

手を^㉚漬てて寒さも^㉛知ら^ノぬ泉にぞ^㉛汲むとはなしに日ごろ^㉜経^ハに^ヒける

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「土佐日記」「忘れ貝」解説

四日。楫取り、「今日、風雲の氣色はなはだ悪し。」と^①言ひて、船^②出ださ^③アズ^④なりイぬ。しかれども、

タ四(未) 未然

ラ四(未) 未然

断定 詠嘆

ハ四(用) サ四(未) 未然 ラ四(用) 完了

ひねもすに波風^④立た^⑤うず。この楫取りは、日もえ^⑤測ら^エぬかたゐ^オなり^カけり。この泊の浜には、

ラ四(未) 未然

ハ四(用) サ四(未) 未然 ラ四(用) 完了

くさぐさのうるはしき貝、石など多かり。^⑥かかれれば、ただ昔の人をのみ^⑦恋ひつつ、船^キなる人の^⑧詠め^クる、

ラ変(回)

ハ上二(用)

存続

マ四(命) 完了

サ下二(体) タ四(用) サ下二(未) ハ上二(体) ラ上二(用) ハ四(未) 意志

寄する波^⑨打ちも^⑩寄せなむわが^⑪恋ふる人忘れ貝^⑫下りて^⑬拾は^ケむ

ハ四(金) 存続

ハ下二(未) 打消

マ四(金) 完了

と^⑯言へ^コれば、ある人の^⑯堪へ^サずして、船の心やりに^⑯詠め^シる、

ハ四(用) サ変(未) 打消意志 ラ上二(体)

ハ四(未) 意志

忘れ貝^⑯拾ひしも^⑯せ^スじ白玉を^⑯恋ふるをだにも形見と^⑯思は^セむ

ハ四(命) 完了

ハ四(用) 強意 推量

断定 打消 ラ変(用) 過去推量

ハ四(未) 推量

となむ^⑯言へ^ソる。女子のためには、親幼く^⑯なりタぬチベし。「玉^ツならずも^⑯ありトけむを。」と人^⑯言は^ナむや。

ナ変(用) 過去

ハ四(体)

ラ変(終)

ハ下二(体)

力四(用)

されども、「死^ニし子、顔よかり^ヌき。」と^⑯言ふやうも^⑯あり。なほ、同じ所に、日を^⑯経ることを^⑯嘆きて、

マ四(命) 完了

ある女の^⑯詠め^ネる歌、

タ下二(用)

ラ四(未) 打消

マ四(終)

ハ下二(用) 完了 詠嘆

手を^⑯漬てて寒さも^⑯知ら^ノぬ泉にぞ^⑯汲むとはなしに日ごろ^⑯経^ハに^ヒける